



2024年10月22日

日本鉄道労働組合連合会

## 交運労協第40回定期総会

### 持続可能な交通運輸・観光サービス産業の確立をめざす！

交運労協は10月10日、「連携・協働・共創 交通運輸・観光サービス産業の持続的成長を基礎に、社会インフラとしての機能を発揮しうる産業政策を実現しよう！」をスローガンに掲げ「第40回定期総会」を開催し、向こう1年の活動方針を決定した。JR連合からは、荻山市朗会長が副議長、慶島譲治特別執行委員が事務局長、政所大祐事務局長が幹事として参画したほか、執行部と各単組から総会代議員計6名と、地方交運労協派遣役員が出席した。



住野議長

冒頭、挨拶に立った住野敏彦議長は能登半島における地震や豪雨災害をはじめ、全国各地で頻発している災害の被災者へのお見舞いと、世界各地で広がる戦禍について一日も早い終結を願う旨を述べた。また、公共交通を取り巻く環境として、改正地域交通法のもとでの持続可能な地域公共交通の再構築、物流に関する課題への対応などを重要課題として掲げ、これらの解決のためにも、来る衆議院総選挙において推薦する全候補者の必勝を勝ち取ることが不可欠であるとし、仲間の結集を求めた。

続いて、来賓として連合本部の清水秀行事務局長や厚労省・国交省の代表者、および推薦議員懇談会の近藤昭一会長や辻元清美副会長、森屋隆事務局長ら国会議員が臨席し、連帯・激励のあいさつを述べた。

その後、事務局から報告と各議案の提起が行われ、質疑応答で計5名の総会代議員が発言に立った。JR連合からは、石川敏也産業政策局長が「安全の確立」「貨物鉄道政策」「カスタ



石川産業政策局長

マーハラスメントの防止」の3点について発言し、交運労協の力強い取り組みを要請した。また、近畿交運労協の西村誠事務局長（JR西労組出身）がライドシェア問題に係る取り組みと、地方交運労協としての組織横断的な運動の効果・意義などについて発言を行った。慶島事務局長からの答弁を経て、全ての議案が満場一致で承認された。

役員改選では、10年にわたって議長を務めた住野議長が退任し、新たに池之谷潤議長（私鉄総連出身）が選出されるとともに、慶島事務局長らが再任された。また、JR連合からは荻山会長と政所事務局長が副議長・幹事にそれぞれ再選され、新体制が確立された。

最後は池之谷新議長による熱い団結がんばろうで閉幕した。



慶島事務局長



池之谷新議長